

【 言語文化教育研究領域 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
言語文化研究演習Ⅰ	4	山里 勝己	修士論文作成に向けての指導を行う。研究の意味研究者のありがたさなどをまずは議論する。それから、プロポーザルの作成に向けた基礎的なリサーチ、資料収集、先行研究の調査・分析、文献一覧作成、テーマを選択するための学生による報告と双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。
言語文化研究演習Ⅰ	4	山田 均	修士論文の作成を指導する。一つのテーマを立てることから、資料収集、その整理、論文の骨格作り、実際の執筆、註のつけ方など、論文というかたちで高度な研究内容を表現するための一切を指導する。 一応、時間割に演習の時間（火曜2時限目）をさだめてはあるが実際には学生個人々人との個人指導であり、講師との相談で時間を定めて個人指導を行う。
言語文化研究演習Ⅰ	4	住江 淳司	まず、修士のテーマを定める。そのテーマに即した先行研究に関する文献を集める方法から始め、図書館のレファレンスコーナーを活用する。演習Ⅰでは研究史を作成ところまでを指導する。
言語文化研究演習Ⅰ	4	渡慶次 正則	Seminar in Language and Culture I 2履修条件 特になし
言語文化研究演習Ⅰ	4	中村 浩一郎	(1)アジアの言語、特に日本語と中国語の統語構造、意味解釈についての知識を習得する。 (2)修士論文で取り上げる内容を決定し、リサーチ・プロポーザルを作成する。
言語文化研究演習Ⅱ	4	山里 勝己	言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文作成の指導を行う。テーマのさらなる絞込み、方法論の確定、参考・引用文献一覧の厳密な検討、資料収集、先行研究の批判的、論文執筆を、双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。
言語文化研究演習Ⅱ	4	山田 均	演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。一つのテーマを立てることから、資料収集、その整理、論文の骨格作り、実際の執筆、註のつけ方など、論文というかたちで高度な研究内容を表現するための一切を指導する。 一応、時間割に演習の時間（火曜2時限目）をさだめてはあるが、実際には学生個人々人との個人指導であり、講師との相談で時間を定めて個人指導を行う。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
言語文化研究演習Ⅱ	4	住江 淳司	修士論文の研究史を完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。
言語文化研究演習Ⅱ	4	渡慶次 正則	修士論文のリサーチ・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。
言語文化研究演習Ⅱ	4	中村 浩一郎	修士論文のテーマを決定し、リサーチ・プロポーザルを作成し、中間発表会を経て、修士論文を完成させることを内容・目的とする。
言語学特論Ⅰ	2	中村 浩一郎	理論的研究分野としての言語学の基礎を身につけ、言語学研究の方法を学ぶ。
言語学特論Ⅱ	2	中村 浩一郎	言語理論研究分野の中核をなす統語論についての知識を深め、統語的分析方法を学ぶ。
英文学特論	2	瀬名波 榮喜	イギリスロマン派詩人ワーズワースとコールリッジの詩論と作品を中心に研究する。ただし、他のロマン派詩人にも言及する。特にその背景となったフランス革命や人間と自然との関係を論じたい。本講義は作品と詩人の生きた時代精神、政治・宗教的思想との関係そして作品の現代性等の研究を目的とするもので、その成果を期待する。
米文学特論	2	山里 勝己	20世紀後半（1950年以降）を代表するアメリカの詩を鑑賞・分析し、アメリカ詩の伝統と盛期モダニズムとの関係を研究する。このような研究方法を通してアメリカ文学の特質を理解することを試みる。
地域言語学特論Ⅰ	2		琉球語、日本語、韓国語、英語等の特定言語研究に関する方法論を研究する。音声・音韻・語形成、統語構造、談話構造、意味の構造などが中心的話題となる。また、時代的には20世紀初頭から今日までとなる。
地域言語学特論Ⅱ	2		社会言語学的視点から特定言語の多様性について研究する。地域社会、年齢、職業、集団、地位、性別、教養、親密度等の要因で言語がどのように変化するかが中心的話題となる。また、複数の言語が接触することによって起こる現象にも触れる。
英文法特論	2	中村 浩一郎	英語の文法についての専門的な知識を身につける。
英語音声学特論	2	中村 浩一郎	英語音声学に関する専門的な知識を身につけさせる。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
英語教授法特論 I	2	渡慶次正則	<p>This course is geared toward the needs of those graduate Students planning to pursue a career in teaching English language. The readings are intended to provide an understanding of the field of language teaching in general and, more specifically, to illustrate the most effective methods of teaching English language to those whose native language is other than English. The readings review the history of second foreign language teaching, twentieth century trends and developments and the current theories and methods most widely recognized today, as well as the two skill areas of aural comprehension and oral production. Various popular methods of the past and present will be demonstrated and practiced, following which their merits and demerits will be discussed. Students will also learn how to evaluate methods, materials and techniques independently as well as how to work on syllabus development for different level language classes. This course is the first semester of a two semester seminar Course. Part II is given annually during the second semester.</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
英語教授法特論Ⅱ	2	渡慶次正則	<p>This course is the second semester continuation of the TESOL seminar given during the first semester. It is geared toward the needs of individuals planning to pursue a career in teaching English language, primarily to native speakers of other languages. The readings and activities are intended to provide an understanding of the field of language teaching in general and, more specifically, to illustrate the most effective methods of teaching English language to non-native English speakers. The readings will focus on reading comprehension and written composition skills. Popular methods, past and present, will be demonstrated and their merits discussed. Readings on comparative studies of L1/L2 learners, “good” Ls, “world English”, and other current topics will also be covered. Students will learn how to evaluate methods, materials and techniques independently and how to work on syllabus development. They will present a demonstration class and participate in at least one professional meeting such as JALT or JACET to meet others individuals involved in language education.</p>
英語教育評価特論	2	渡慶次 正則	<p>4技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を学ぶ。教室や教室外における現在の評価の問題（issue）を取り上げる。</p>
リサーチ方法特論	2	渡慶次 正則	<p>社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチ・プロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。</p>
理論言語学特論	2	中村 浩一郎	<p>言語理論の基本を身に着け、言語学的な思考方法を習得させる。</p>
比較教育文化思想特論	2	嘉納 英明	<p>本講義では、人間の成長・発達に大きな影響を及ぼす教育的営みについて考える。教育という営みは、社会全体の諸事象と密接に関わるものであるから、講義の内容は、まず現代に至るまでの社会における子ども観の変容を概観する。次に、近代の公教育確立以降の教育制度改革と教育権利論、生涯学習社会の到来を導いたラングランの思想を読み解き、今後の日本教育の進むべき方向を考える。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
琉球歴史学特論	2	井上 秀雄	<p>琉球王国は、日本の歴史の中の地域史として位置づけることは出来ない。東アジア全域にわたって交易した独立国家であった。この講義では、中国をはじめとする東アジア全域との交易の歴史を、「歴代宝案」という外交文書を解読しながら理解する方法をとる。</p>
沖縄地域文化研究特論	2	中村 誠司	<p>受講学生のこれまでの「沖縄の歴史文化」に関する基本学習・知識を磨きなおし、その深化を図る。講義は、「沖縄の歴史と文化」（沖縄県教育委員会、2000年）をテキストに構成・展開するが、地域イメージと理解、研究方法を具体化するため名護・やんばるの事象・事例を積極的にとりあげる。さらに、地域文化の現場・現物経験の重要性を考え、＜野外講義＞として資料機関見学、地域巡身を設定する。</p> <p>受講学生は、各回のテーマについて「テキスト・講義ノート」を作成する。</p>
東南アジア文化特論	2	山田 均	<p>東南アジアを中心にアジアの文化事象について論じる。文化事象のどの部分に焦点を当てるかは受講者の興味関心による。当面は、言語を使った表現、詩、演劇、芸能などを扱う。</p> <p>「読む文学」というより「聞く文学」「語る文学」「見る文学」であるから、毎回必ず視聴覚教材を使う。</p>
中南米文化特論	2	住江 淳司	<p>ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
第2言語習得特論	2	渡慶次 正則	<p>過去の研究成果から次の点を学ぶ。</p> <p>(1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか</p> <p>(2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。</p> <p>(3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。</p>
琉球・沖縄歌謡特論	2	平山 良明	<p>日本文学に位置する沖縄文学の秀れた発想法について学ぶ。</p> <p>① 「おもろさうし」の研究を通して、文学の誕生、展開、それらの生活化について学ぶ。</p> <p>② 「おもろさうし」、及び南島歌謡の研究を通して、古代人の神概念、世界観を考える。</p> <p>③ 「おもろさうし」、及び南島歌謡の研究を通して、現代沖縄語の成立過程を学ぶ。</p> <p>④ 「おもろさうし」及び南島歌謡を総合科学として位置づけ、深い理念を求めていく</p>